ICOM

取扱説明書

VHF無線電話装置

IC-VH21CT
IC-VH25CT
IC-VH21MFT
IC-VH25MFT

UHF無線電話装置

IC-UH21CT
IC-UH25CT
IC-UH21MFT
IC-UH25MFT

Icom Inc.

はじめに

このたびは、アイコム業務用無線電話装置をお買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、大切に保管してください。

- この取扱説明書は、簡易業務用無線機と一般業務用無線機を併記していますのでご注意ください。
- 本機は、携帯用として、設計されたプレストーク方式の業務無線電話装置です。
- 他局の不要な通話をカットする連続トーンスケルチ、連続デジタルコードスケルチ、デジタルトーンスケルチ回路を装備しています。
- 本機は電波法の無線設備規則、および型式検定規則に基づいて、郵政省の型式検定試験に合格した製品です。
- 夜間や暗がりの中での操作を容易にするオートランプ機能を装備しています。
  [PTT]スイッチ以外のスイッチ操作を行うと、自動的にディスプレイのバックライトが約5秒間点灯します。

標準構成品

品名	型式			
無線機本体	IC-VH21CT IC-VH21MFT IC-VH25CT IC-VH25MFT	1	IC-UH21CT IC-UH21MFT IC-UH25CT IC-UH25MFT	1
アンテナ	FA-S58V	1	(※)下記参照	1
ハンドストラップ		1		1
取扱説明書		1		1
保証書		1		1

※IC-UH21CT/IC-UH25CTタイプ……450MHz帯：FA-S71U
※IC-UH21MFT/IC-UH25MFTタイプ……450MHz帯：FA-S71U
400MHz帯：FA-S25U
360MHz帯：FA-S01Uのいずれか

■ 型式検定番号（21シリーズ）

・IC-VH21CT
（簡易業務用）

機器の名称	VHF 無線電話装置 IC-VH21CT
機器の型式名	CS1ED150-1F3E1-5
検定番号	C97019
型式検定合格の年月日	平成 9年 7月14日

・IC-UH21CT
（簡易業務用）

機器の名称	UHF 無線電話装置 IC-UH21CT
機器の型式名	CS1ED400-1F3E1-6
検定番号	C97018
型式検定合格の年月日	平成 9年 7月 2日

・IC-VH21MFT
（一般業務用）

機器の名称	VHF 無線電話装置 IC-VH21MFT
機器の型式名	FS3ED150-1F2D・F3E10-1
検定番号	F97038
型式検定合格の年月日	平成 9年 7月14日

・IC-UH21MFT
（一般業務用）

機器の名称	UHF 無線電話装置 IC-UH21MFT
機器の型式名	FS3ED400-1F2D・F3E10-1
検定番号	F97036
型式検定合格の年月日	平成 9年 7月 2日

■ 型式検定番号（25シリーズ）

・IC-VH25CT
（簡易業務用）

機器の名称	VHF 無線電話装置 IC-VH25CT
機器の型式名	CS1ED150-3～5F3E1-2
検定番号	C97029
型式検定合格の年月日	平成 9年12月18日

・IC-UH25CT
（簡易業務用）

機器の名称	UHF 無線電話装置 IC-UH25CT
機器の型式名	CS1ED400-3～5F3E1-2
検定番号	C97030
型式検定合格の年月日	平成 9年12月18日

・IC-VH25MFT
（一般業務用）

機器の名称	VHF 無線電話装置 IC-VH25MFT
機器の型式名	FS3ED150-3～5F2D・F3E10-2
検定番号	F97055
型式検定合格の年月日	平成 9年12月18日

・IC-UH25MFT
（一般業務用）

機器の名称	UHF 無線電話装置 IC-UH25MFT
機器の型式名	FS3ED400-3～5F2D・F3E10-2
検定番号	F97056
型式検定合格の年月日	平成 9年12月18日

目　次

■ CT 、 MFT 表記について

この取扱説明書は、簡易業務用無線機と一般業務用無線機を併記していますので、文中につけた次の表記にご注意ください。
なお、一般的なご使用を想定した内容にしていますので、各種機能や設定について詳しくは、販売店にご相談ください。

◎　特に表記のない項目と併せてお読みください。◎	
CT	簡易業務用無線機(IC-VH21CT/IC-UH21CTまたはIC-VH25CT/IC-UH25CT)をお使いのかたは、この表記にしたがってお読みください。
MFT	一般業務用無線機(IC-VH21MFT/IC-UH21MFTまたはIC-VH25MFT/IC-UH25MFT)をお使いのかたは、この表記にしたがってお読みください。

1.安全上のご注意(必ずお読みください。)……1
2.ご使用前の準備……9
3.各部の名称と機能……11
■前面部……11
■ディスプレイ部……13
4.交信のしかた……14
1 電源を入れる……14
2 音量を調節する……14
3 相手局の選びかた……15
MFT ■通話チャンネルを選択する……15
■個別(相手局)番号を選択する……16
4 呼び出しをする……17
5 呼び出しを受ける……18
6 交信する……19
■正しい通話方法……19

目　次

■交信時のアドバイス ……20
1.マイクロホンの使いかた ……20
2.個別呼び出しについて ……20
3.モニター機能について ……20
4.ロック機能について ……20
5.交信する場所について ……20
5.充電について ……21
■バッテリーパックの残量表示について ……21
■バッテリーパックの名称と定格について ……21
■充電器の名称と定格について ……21
■安全な充電のために ……22
■正しい充電のために ……22
■充電準備のために ……23
A仕切板(AD-62S/AD-62Lに付属)について ……24
B連結充電について ……24
■急速充電のしかた ……25
■充電ランプが赤色で点滅するときは ……25
■リフレッシュ(放電)のしかた ……26
■リフレッシュ時間について ……26
■リフレッシュ機能使用時のアドバイス ……26
6.別売品について ……27
■別売品一覧表 ……27
■別売品の使いかた ……28
◎EM-80/89(スピーカーマイクロホン) ……28
◎AD-52(イヤホンジャックアダプター) ……28
◎本機への取り付けかた ……28
7.保守について ……29
A日常の保守と点検について ……29
B故障かな？と思ったら ……29
Cアフターサービスについて ……30

1 安全上のご注意

安全にお使いいただくために、ご使用の前に、必ずお読みください。

▶ここに示した注意事項は、使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。
▶次の『⚠危険』『⚠警告』『⚠注意』の内容をよく理解してから本文をお読みください。
▶お読みになったあとは、いつでも読める場所へ大切に保管してください。

■ 無線機本体について

⚠危険 **下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。**

- **引火性ガスの発生する場所では、絶対に使用しないでください。**
  引火、火災、爆発の原因になります。

⚠警告 **下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。**

- **本機を電子機器・電気製品のごく近くで使用した場合、電波障害により電子機器が誤動作、故障する原因になります。**
  特に医療機器のある病院内では、絶対に使用しないでください。
- **製品の分解や改造は、絶対にしないでください。また、ご自分で修理しないでください。**
  火災、感電、故障の原因になります。

- **大きな音量でヘッドホンやイヤホンなどを使用しないでください。**
  大きな音を連続して聞くと、耳に障害を与える原因になります。
- **万一煙が出ている、変なにおいがするなどの異常状態のまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。**
  すぐに電源を切り、バッテリーパックを取りはずしてください。煙が出なくなるのを確認し、販売店または弊社営業所サービス係に連絡してください。

⚠注意 **下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。**

- **無線機をぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。**
  落ちたり、倒れたりして火災、けが、故障の原因となることがあります。
- **直射日光のあたる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所に置かないでください。**
  変形、変色、火災、故障の原因になることがあります。
- **指定以外の別売品を接続しないでください。**
  故障の原因になることがあります。
- **テレビやラジオの近くで送信しないでください。**
  電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。
- **清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対使用しないでください。**
  ケースが変質したり、塗装がはげる原因になることがあります。普段はやわらかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。

■バッテリーパックについて

⚠危険 **下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。**

◎下記の事項を守らないと、破裂、発火や火災、発熱、液もれ、感電、やけどの原因になります。

- 専用充電器BC-118J以外で充電しないでください。
- バッテリーパックBP-178/BP-179を本機以外に使用しないでください。
- 電池の液が目に入ったときは、こすらないでください。
  失明のおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗ったあと、ただちに医師の治療を受けてください。
- 火の中に投入したり、加熱しないでください。
- 半田付けしないでください。
- バッテリーパックの端子間をショートしないでください。
- ネックレスなどの金属類と一緒に持ち運んだり、放置しないでください。
- 火のそば、ストーブのそばや炎天下など高温になる場所での使用、充電、放置はしないでください。

⚠警告 **下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。**

◎下記の事項を守らないと、破裂、発熱、液もれの原因になります。

- テープを巻きつけたり、加工しないでください。
  電池から、ガスが発生することがあります。
- バッテリーパックの上に工具などの金属や導電性のあるものを置いたり、落下させないでください。

- 電池を水や海水につけたり、ぬらさないでください。
- 電池を分解、改造しないでください。

⚠注意 **下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。**

◎下記の事項を守らないと、破裂、発熱、液もれ、サビ、性能や寿命の低下の原因になることがあります。

- 0～＋40℃の範囲以外では充電しないでください。
- 高温の場所で使用、放置しないでください。
- 寒い戸外や冷えたままで充電しないでください。
- 強い衝撃を与えたり、投げ付けたりしないでください。
- 指定時間以上充電しないでください。
- 無線機を使用しないときは、必ず電源スイッチを切ってください。
- 無線機を長時間使用しないときは、バッテリーパックを取りはずし、－20℃～＋35℃の湿気の少ない場所に保管してください。

◎清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対使用しないでください。

- ケースが変質したり、塗装がはげる原因になることがあります。普段はやわらかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。

◆バッテリーパックを使用の際に、異常と思われたときは、使用しないでお買い上げの販売店、または弊社営業所サービス係に連絡してください。

1 安全上のご注意

■充電器について

⚠危険	下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

◎下記の事項を守らないと、破裂、発火や火災、発熱、液もれ、感電、けが、故障の原因になります。

- 必ず指定以外の電源を使用しないでください。
- 指定以外の充電には使用しないでください。
  バッテリーパックBP-178/BP-179専用の充電器です。
- BC-118J以外の充電器を、連結用ACアウトレットに差し込んで使用しないでください。
- 充電器を10台以上連結しないでください。
- バッテリーパックのプラス⊕とマイナス⊖の極性をまちがえないように十分注意してください。
- この製品を分解、改造しないでください。
  また、ご自分で修理しないでください。

⚠警告	下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

◎下記の事項を守らないと、火災、発熱、感電、けが、故障の原因になります。

- 充電器に水を入れたり、ぬらさないでください。また、水にぬれたときは、使用しないでください。
- ぬれた手で電源プラグや機器に絶対触れないでください。
- 電源コードや接続ケーブルの上に乗ったり、重い物を乗せたりしないでください。
- 電源コードや接続ケーブルを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱しないでください。

- 電源コードや接続ケーブルが傷ついたり、ACコンセントの差し込みがゆるいときは使用しないでください。
- 充電器の充電端子接点部に金属類を差し込まないでください。
- 赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、保管してください。
- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用しないでください。
  すぐにACコンセントから電源コードを抜き、煙が出なくなるのを確認してからお買い上げ販売店、または弊社営業所サービス係に連絡してください。

⚠注意 **下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。**

◎下記の事項を守らないと、火災、液もれ、発熱、感電、故障の原因になります。

- 0～＋40℃の範囲以外では充電しないでください。
- 指定時間以上充電しないでください。
- 湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所に置かないでください。
- 電源コードを抜き差しするときは、電源コードを引っ張らないでください。
- 充電後や充電しないときは、ACコンセントから電源コードを抜いてください。
- ACコンセントに充電器のACプラグを直接差し込まないでください。
  充電器のACプラグに、付属品の電源コードを差し込んでから使用してください。

■充電器について(つづき)

⚠注意	**下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。**

◎直射日光のあたる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所には設置しないでください。
充電器の火災、故障、変形、変色、または電池の破裂、発熱、液もれの原因になることがあります。

◎充電器を保管するときは、−20℃〜＋60℃で湿気の少ない場所に保管してください。
サビの発生、性能の低下の原因になることがあります。

◎清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対使用しないでください。
ケースが変質したり、塗装がはげる原因になることがあります。
普段はやわらかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。

取り扱い上のご注意

- バッテリーパックをお買い上げいただいたときや、2ヵ月以上使用しなかったときは、必ず充電してください。
- 本製品を極端に寒い場所から持ち運んだ場合は、結露する可能性があります。
  結露した場合は、水分をふき取ってからご使用ください。
- バッテリーパックが満充電になったのち、短時間運用して繰り返し充電すると、みかけ上電池の容量が低下した状態となり、電池を劣化させる原因になります。
  このときは、急速充電器(BC-118J)の放電機能(☞P26)を使用して、完全に放電してから、再充電してください。

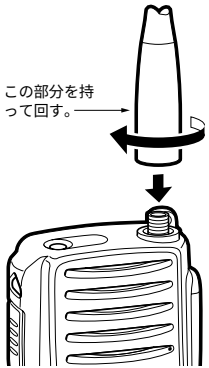
- 充電口や充電端子部にゴミやホコリが付着すると、正常に充電できないことがあるので、ときどきお手入れしてください。
- 磁気カードを無線機に近づけないでください。
  磁気カードの内容が消去されることがあります。
- アンテナを持って、製品を持ち運ばないでください。
- 製品を水の中に入れないでください。
  多少の雨の中でも使用できますが、水につけると故障の原因になります。
- 本装置の故障、誤動作、不具合あるいは停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益または第三者からのいかなる請求についても当社は一切その責任を負いかねますので予めご了承ください。

電波法上の注意

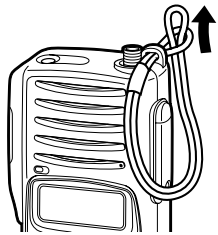
- 本機は電波法、無線設備規則に基づく業務用無線電話装置です。そのため封印を施しています。
  封印シールをはがしたり、内部を調整したり変更することはかたく禁じられています。
- 封印のない無線機は、型式検定機器としての効力がなくなり、使用できません。
- 通信は免許状に記載されている範囲内で行ってください。
- 特に他局の通信を妨害したり、通話の内容を他に漏らし、これを窃用することは、かたく禁じられています。
- 免許の有効期限は、免許を取得した日から5年間です。
  再免許の申請は、免許の切れる6ヵ月前から3ヵ月前の間に手続きをしてください。
- 使用できるのは、日本国内に限られています。

2 ご使用前の準備

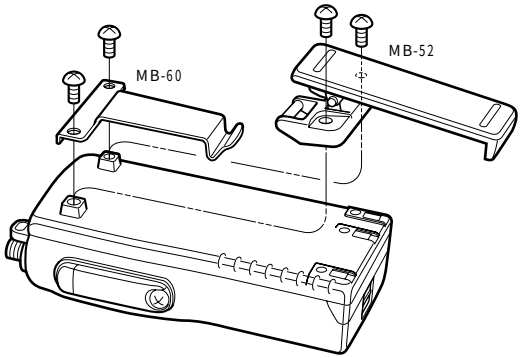
■ アンテナの取り付け



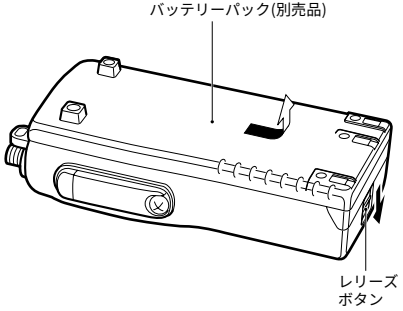
■ ハンドストラップの取り付け



■ ベルトクリップの取り付け(別売品)



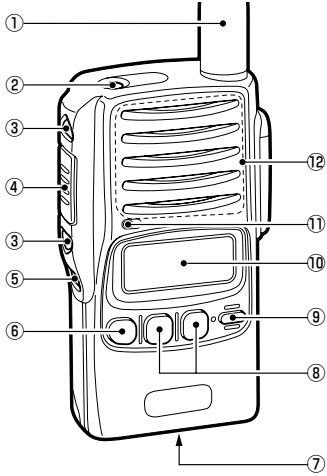
■ バッテリーパックのはずしかた



● レリーズボタンを押しながら、バッテリーパックを矢印の方向にスライドさせてはずします。

3 各部の名称と機能

■ 前面部

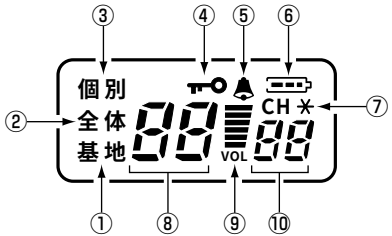


①アンテナ	電波を発射または、受信する部分です。
②電源スイッチ	長く押すごとに、電源を**"**ON/OFF**"**します。
③音量スイッチ (※)	受信音の音量を段階的に調整します。 **(☞P14)** アップ(大きくする)とダウン(小さくする)があり、押し続けると連続動作します。 なお、音量レベルが最大になると、禁止音が1回鳴って止まります。
④PTT(送信) スイッチ	送信するときは、このスイッチを押しながら、マイクに向かって話しかけます。 **(☞P17)**
⑤モニタースイッチ (※)	他局の交信を聞くとき押します。 押すごとに、**"**ON/OFF**"**します。 **(☞P20)**

⑥全体/基地スイッチ （※）	全体または基地局の呼び出しを選択するスイッチです。 **(☞P16)** なお、個別呼び出し機能を設定していない場合、スイッチ操作は無効になります。 MFT：長く押すと、**“**CH**”**表示が点滅して通話チャンネルモードになります。 **(☞P15)**
⑦レリーズボタン	バッテリーパックを本体からはずすときに使用します。 **(☞P10)**
⑧選択スイッチ （※）	CT：通話を行う個別(相手局)番号を選択します。 **(☞P16)** なお、個別呼び出し機能を設定していない場合、スイッチ操作は無効になります。 MFT：通話を行うチャンネルおよび個別(相手局)番号を選択します。 **(☞P15、16)** なお、通話チャンネルモードと個別番号モードの切り替えは全体/基地スイッチで変更できます。 **(☞P15)**
	△を押すと表示番号がアップします。 ▽を押すと表示番号がダウンします。 押し続けると、連続動作します。
⑨ロックスイッチ （※）	長く押すごとに、ロック機能を**“**ON/OFF**”**します。 **(☞P20)**
⑩ディスプレイ	運用状態を表示します。 **(☞P13)**
⑪送信/着信表示ランプ	送信/受信/着信の状態を示します。 • 送信時は赤色で点灯します。 • 受信時は緑色で点灯します。 • 着信中は橙色で点滅します。
⑫マイクスピーカー収容部	超小型のマイクおよびスピーカーが内蔵されている部分です。 送信時はこの部分に向かって通話します。 外部スピーカーマイクロホンを接続すると、内蔵スピーカーは動作しません。

■ 電源投入時、または(※)印のスイッチを操作したとき、約5秒間ディスプレイのバックライトが点灯します。

■ディスプレイ部



①**基地表示**	基地呼び出しの運用中を表示します。
②**全体表示**	全体呼び出しの運用中を表示します。
③**個別表示**	個別呼び出しの運用中を表示します。
④	ロック機能の使用中を表示します。
⑤ (ベル)	ポケットビープまたはPベル/ブザー**"**ON**"**機能の設定中を表示し、着信を点滅で知らせます。
⑥	電池の容量を3段階で表示します。
⑦	コンパンダー機能の設定中を表示します。
⑧ 88	運用する個別(相手局)番号などを表示します。 個別番号(00～99・0-から9-)と全体(AL)/基地(00～99のうち指定された1局)を表示します。 なお、個別呼び出し機能を設定していない場合、**"**AL**"**を表示します。
⑨ VOL (音量バー)	音量レベルを表示します。 音量レベルが最小のときは、**"**VOL**"**だけを表示します。
⑩ (MFTタイプだけ表示) CH 88	MFT：運用するチャンネル番号を表示します。 個別呼び出し機能を設定している場合、チャンネル番号選択モード中は、**"**CH**"**表示を点滅します。

1 電源を入れる

[電源]スイッチを長く(1秒以上) 押します。

- ビープ音が**“ピッ”**と鳴って、ディスプレイには、電源を切る前の状態を表示します。

※このとき、ディスプレイのバックライトが約5秒間点灯します。

再度、**[電源]**スイッチを長く押すと電源が切れます。

《個別呼び出し機能運用時の表示について》

CT タイプ

電源投入時、電源を切る前の状態を表示します。

MFT タイプ

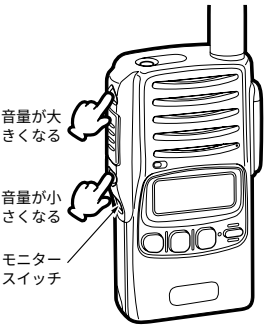
電源投入時、約2秒間自局番号を表示します。

2 音量を調節する

相手局の音声が大きすぎたり、小さすぎるときは、**[音量]**スイッチを押し、聞きやすい音量に調整します。

※なにも音が出ていないときに、音量を調節する場合は、**[モニター]**スイッチを押すと、「ザー」という雑音が出ますから、この雑音を聞きながら調整してください。

再度、**[モニター]**スイッチを押すと雑音が切れます。



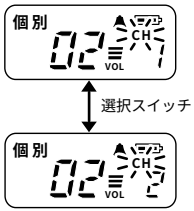
3 相手局の選びかた

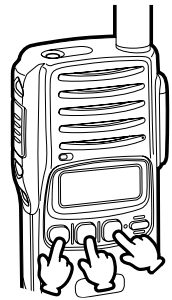
MFT ■通話チャンネルを選択する

通話チャンネルとは、交信する周波数のことです。
本機のチャンネルは、ch0～ch9の10チャンネルあり、あらかじめ交信する全局は、同一チャンネルにしておきます。

●通話チャンネルモードのとき

“CH”表示が点滅中に、**[選択]**スイッチ △ または ▽ を押します。





●個別(相手局)番号モードのとき

①**[全体/基地]**スイッチを長く押します。**“CH”**表示が点滅して、通話チャンネルモードになります。

②**[選択]**スイッチ △ または ▽ を押します。

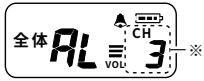
■ 個別(相手局)番号を選択する

個別番号とは、個別呼び出し機能を使って運用するときに、交信する相手を指定するための番号です。

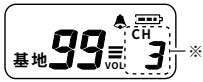
MFT 通話チャンネルモード(☞P15)のときは、**[全体/基地]**スイッチを押して個別番号モードにしてから、次の操作をしてください。

(1)[全体/基地]スイッチを短く押して、全体または基地局の切り替えをします。

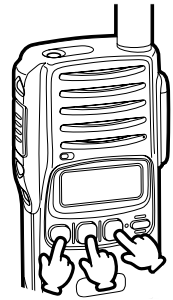
●全体呼び出しの表示例



●基地呼び出しの表示例

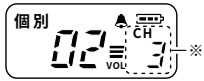


※印部分の表示は、MFT タイプのみ

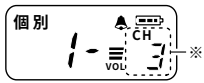


(2)[選択]スイッチ ⌃ または ⌄ を押して、個別番号またはグループ番号を設定します。

●個別呼び出しの表示例



●グループ呼び出しの表示例



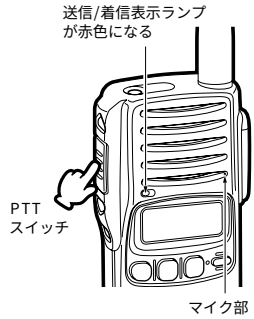
※印部分の表示は、MFT タイプのみ

呼び出しの種類

- **全体**（AL）
  一斉に全局を呼び出す
- **基地**（00～99のうち指定された1局）
  基地局だけを呼び出す
- **個別**
  （00～99）
  各個別局を呼び出す
  （0- ～ 9-）
  グループ局を呼び出す

4 呼び出しをする

[PTT]スイッチを押しながら、マイク部に向かって
『**こちらは××局です。**
○○さんどうぞ。』
と呼びかけます。



- **[PTT]**スイッチを押すと、**“**ピピッ**”**と鳴り、送信/着信表示ランプが赤色に点灯します。

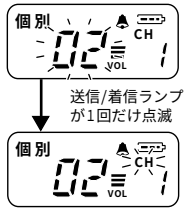
※個別呼び出しを受けると、相手局は、**“**ピロピロピロ**”**の呼び出し音が鳴ります。このとき、応答するまで送信/着信表示ランプを橙色に点滅します。なお、呼び出しが、全体またはグループにおよぶときは、送信/着信表示ランプだけで知らせます。

■ 個別呼び出し機能使用時の呼び出しについて

個別呼び出し機能(アンサーバック機能**“**ON**”**)が設定されているときは、

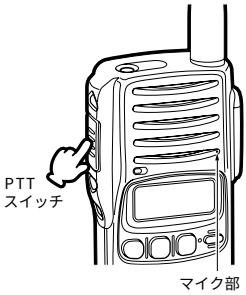
①**[PTT]**スイッチを短く押します。
個別番号表示が点滅して、相手局が通話圏内であれば、**“**ピッ**”**音が1回鳴って送信/着信表示ランプを1回だけ緑色に点滅します。このとき、個別番号表示は点灯に戻ります。

②**[PTT]**スイッチを押しながら、上記のようにマイク部に向かって呼びかけます。



5 呼び出しを受ける

呼び出しを受けると、呼び出し音が鳴りますから、**[PTT]**スイッチを押しながら、マイク部に向かって
『**こちらは○○局です。**
××さんどうぞ。』
と応答します。



《着信機能について》

個別呼び出し機能での待ち受け受信中、無線機から離れていても呼び出しを受けたことを知らせる便利な機能です。

相手局からの呼び出しを受けると、本機で応答しない限り、**"**ピロピロピロ**"**の呼び出し音が約30秒間鳴り続けます。

同時に、🔔表示の点滅と送信/着信表示ランプを橙色に点滅します。

このランプと🔔表示の点滅は、応答するまで続きますので、**[PTT]**以外のスイッチを押しても点滅を停止できます。

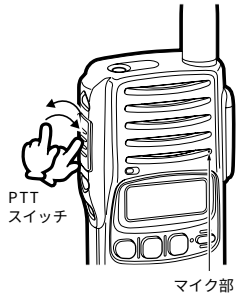
■ アンサーバック機能が設定されているときは

個別呼び出しを受けると、上記の着信機能に加えて、相手の個別番号をディスプレイ部に点滅表示します。また、点滅を止める操作は上記と同じです。

個別呼び出しを受けたときの表示

6 交信する

交信は交互に行います。
- 双方同時に送信しても、交信できません。
- 送信の終わりに『どうぞ』をつけ加えると、会話がスムーズに運びます。



■正しい通話方法

- 通話は次の要領で行ってください。
  用件は簡潔に話し、長い通話はさけてください。

呼び出し		応答	
『相手局の呼び出し名称』	3回以下	『相手局の呼び出し名称』	3回以下
『こちらは』	1回	『こちらは』	1回
『自局の呼び出し名称』	3回以下	『自局の呼び出し名称』	1回
『どうぞ』	1回	『どうぞ』	1回

※以下用件を簡潔に話してください。

■ 交信時のアドバイス

1.マイクロホンの使いかた

- マイクロホンに向かって話すときは、マイクロホンと口元を5cmくらい離し、ふつうに話す大きさの声で話しかけてください。
  あまり大きな声で話すと、かえって明瞭度が悪くなります。
- デジタルトーンスケルチ運用時は、**[PTT]**(送信)スイッチを押すと**"**ピッ**"**という音が鳴ります。
  そのあとマイクロホンに向かって話しかけてください。

2.個別呼び出しについて

個別呼び出しをするときは、相手局の個別番号にしないと個別呼び出しできません。

(MFT) 通話チャンネルを相手局と同じにしてから上記のように相手局の個別番号にしてください。

3.モニター機能について

通常は使用しませんが、他の局が個別呼び出しで交信しているとき、**[モニター]**スイッチを押すと、その交信を受信できます。
また交信相手局の信号が弱かったり、途切れたりして聞こえにくいとき、**[モニター]**スイッチを押すと、聞きやすくなります。

4.ロック機能について

不用意にスイッチにふれても、個別番号や全体/基地表示が変わらないようにする機能です。
[ロック]スイッチを長く押すと、**"**ピッピピッ**"**と音がして、「🔑」表示をディスプレイ部に点灯します。
点灯中は、前面スイッチの働きが無効になります。
再度、同じ操作で解除します。

5.交信する場所について

建物のかげなどに入りますと、受信しにくくなることがあります。そのときは、場所を少し移動して交信するようにしてください。

5 充電について

■ バッテリーパックの残量表示について

- ディスプレイ部の電池マークは、バッテリーパックの充電時期を知らせるための表示で、電池の残量に応じて変化します。

表示	バッテリーの状態
	十分に容量があります。
	充電する時期です。(短時間の運用は可)
	すぐに使えなくなりますので充電が必要です。

■ バッテリーパックの名称と定格について(別売品)

名称 / 定格項目		BP-178	BP-179
電池の種類		ニッケル水素	ニッケル水素
電池の容量		700mAh	1550mAh
出力電圧		7.2V	7.2V
寸法 (幅×高さ×奥行)		53×107×11.8	53×107×21.4
		<条件>突起物は含まず/<単位> mm	
運用時間	IC-VH21CT	約8時間	約18時間
	IC-UH21CT	約8時間	約18時間30分
	IC-VH21MFT	約7時間30分	約17時間
	IC-UH21MFT	約8時間	約18時間30分
	IC-VH25CT	約4時間30分	約11時間
	IC-UH25CT	約4時間	約9時間30分
	IC-VH25MFT	約4時間30分	約11時間
	IC-UH25MFT	約4時間	約9時間30分
	<条件> 送信5、受信5、待ち受け90の割合で、繰り返し運用		
充電時間		約1.5時間	約2.5時間

■ 充電器の名称と定格について(別売品)

- **名　　称：**BC-118J急速充電器
- **定格入力電圧：**AC100V(50/60Hz)
- **使用温度範囲：**0℃～＋40℃
- **保存温度範囲：**－20℃～＋60℃
- **連　　結：**10台以内
- **重　　量：**約630g
- **寸　　法：**115(W)×70(H)×221(D)

■ 安全な充電のために

⚠危険

- 充電するときは、必ず指定の充電器をご使用ください。
  充電器については、21ページをご覧ください。
- 指定以外のバッテリーパックまたは乾電池は、絶対に充電しないでください。
- 『安全上のご注意』(☞P1〜8)を併せてお読みになり、安全な方法で充電してください。

■ 正しい充電のために

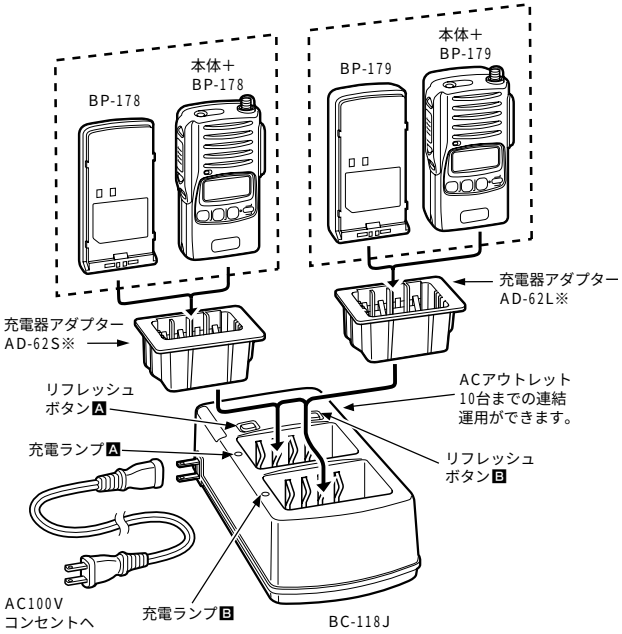
※バッテリーパックを無線機本体に装着したまま充電するときは、必ず無線機の電源を切って充電してください。

- バッテリーパックをお買い上げいただいたときや、長期間(約2ヵ月以上)充電しなかったときは充電してください。
- 極端な高温・低温のもとで充電したり、バッテリーパックと充電器の温度差が大きいときは、充電できないことがあります。
  充電するときは、0℃〜＋40℃の範囲を超えない場所で行ってください。
- バッテリーパックの寿命(充電回数)は、使用する頻度(ひんど)によりますが、普通の使いかたで約300回です。
  指定時間充電しても、数分後にディスプレイ部の電池マークが変化する(運用時間が極端に短い)ときは交換時期です。
- バッテリーパックが満充電になったのち、短時間運用(電池の容量がまだ十分なとき)して繰り返し充電すると、見かけ上電池の容量が低下した状態になりますので、急速充電器(BC-118J)の放電機能(☞P26)を使用して、完全に放電してから、再充電してください。

5 充電について

■ 充電準備のために

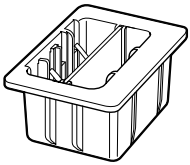
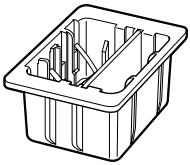
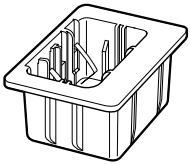
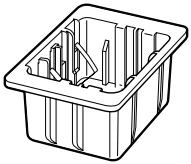
別売品のBC-118J(急速充電器)は充電部が2スロット(**A**/**B**)あり、充電器アダプター(別売品)を使用すると、それぞれ個別に充電と放電ができます。



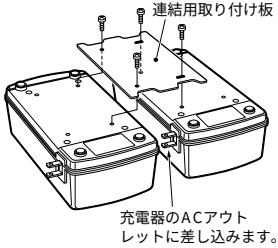
※AD-62S/AD-62Lの仕切り板、急速充電のしかたについて詳しくは、次ページをご覧ください。

【ご参考】ソフトケースをつけた状態でも充電できます。

A 仕切板(AD-62S/AD-62Lに付属)について

AD-62S	AD-62L
● BP-178の充電 仕切板を使用します。 	● BP-179の充電 仕切板を使用します。 
● 本体＋BP-178の充電 仕切板を使用しません。 	● 本体＋BP-179の充電 仕切板を使用しません。 

B 連結充電について



連結板の取り付けにより、最大10台までの充電器を連結して同時に充電できます。

①充電器底面に付いている連結板をはずします。
②左図のように充電器を連結板で固定します。

5 充電について

■急速充電のしかた

①23ページのイラストを参考にして、AC電源コードの一端を充電器、もう一端をAC100Vコンセントに接続します。
②バッテリーパックを充電口にセットします。
●使用充電口の充電ランプ(**A**または**B**)が赤色に点灯します。
③充電が完了すると、充電ランプが緑色に変わります。

■充電ランプが赤色で点滅するときは

長期間(2ヵ月以上)放置されたバッテリーパックや、お買い上げ後、はじめて充電するときは、バッテリーパックの容量が極端に少なくなっていることがあるので、充電ランプを赤色に点滅して知らせます。
このようなときは、次の処置をしてください。

①点滅状態のまま、約1時間の予備充電をしてください。
●充電ランプが赤色に点灯し、充電状態になります。
●約1時間予備充電しても充電ランプが赤色に点灯しないときは、バッテリーパックの故障が考えられます。

②充電が完了すると、充電ランプが緑色に変わります。
●充電が完了したバッテリーパックを、そのまま放置しておいても満充電を保つために小電流(トリクル)充電しています。

【ご注意】: 充電完了後のバッテリーパックを、繰り返し急速充電しないでください。
繰り返しバッテリーパックを、急速充電器の充電口にセットすると、過充電になって温度上昇し、バッテリーパックの寿命が短くなります。
バッテリーパックは、通常約300回充電できます。

■リフレッシュ(放電)のしかた

短時間運用(電池の容量がまだ十分なとき)して繰り返し充電すると、見かけ上電池の容量が低下した状態となり、運用時間が極端に短くなることがあります。

※このような状態になったときは、充電する前に、リフレッシュ操作で電池を再生してください。

①バッテリーパックを充電口にセットします。

●使用充電口の充電ランプ(**A**または**B**)が赤色に点灯します。

②リフレッシュボタン(**A**または**B**)を約1秒以上押します。

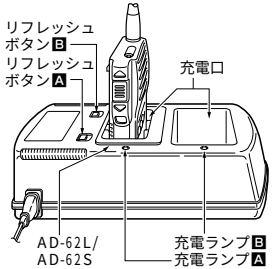
●充電ランプが橙色に変わります。

③リフレッシュが完了すると、自動的に充電します。

■リフレッシュ時間について

指定の充電時間(☞P21)でバッテリーパックを充電するために、バッテリーパックに残っている電気を完全に放電するのにかかる時間です。

BP-178：最大約4時間
BP-179：最大約8時間



■リフレッシュ機能使用時のアドバイス

●バッテリーパックの充電は、無線機の電池マークで判断し、正しい充電を行えばリフレッシュ操作をする必要はありません。

●バッテリーパックを充電口にセットしたあと、5分以内にリフレッシュボタンを押してください。
セットして5分以上経過すると、リフレッシュ操作は無効になります。

●リフレッシュ中に、リフレッシュボタンを押すとリフレッシュ動作を解除します。

●リフレッシュ完了後、自動的に充電している間は、リフレッシュボタンは無効です。

6 別売品について

■ 別売品一覧表

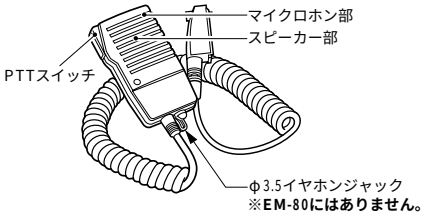
本機の性能を余すことなく活用し、さらに充実、グレードアップしていただくために、次のような豊富な別売品を用意しています。

AD-52	イヤホンジャックアダプター
AD-62S	BP-178用充電器アダプター
AD-62L	BP-179用充電器アダプター
BC-118J	2連急速充電器(リフレッシュ機能付)
BP-178	バッテリーパック(Ni-MH 7.2V 700mAh)
BP-179	バッテリーパック(Ni-MH 7.2V 1550mAh)
BP-191	乾電池パック(単三アルカリ電池5本使用)
EM-80	スピーカーマイクロホン
EM-89	小型スピーカーマイクロホン
FA-S58V	IC-VH21CT/IC-VH21MFT IC-VH25CT/IC-VH25MFT　専用アンテナ補修用
FA-S71U	IC-UH21CT/IC-UH21MFT IC-UH25CT/IC-UH25MFT 専用アンテナ(450MHz) 補修用
FA-S72U	IC-UH21CT/IC-UH21MFT IC-UH25CT/IC-UH25MFT 専用アンテナ(450MHz超小型ヘリカル)
FA-S25U	IC-UH21MFT IC-UH25MFT　専用アンテナ(400MHz) 補修用
FA-S01U	IC-UH21MFT IC-UH25MFT　専用アンテナ(360MHz) 補修用
LC-130	ソフトケース(BP-178用)
LC-131	ソフトケース(BP-179用)
MB-52	ベルトクリップ
MB-60	ベルトクリップ(簡易型)

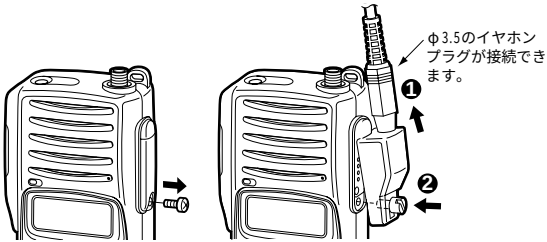
■ 別売品の使いかた

◎EM-80/89(スピーカーマイクロホン)

● EM-89の場合



◎AD-52(イヤホンジャックアダプター)



◎本機への取り付けかた

①本体側面のスピーカーマイクロホン取り付け部の保護カバーをはずします。

②AD-52(イヤホンジャックアダプター)を取り付け部にはめ込んで、固定します。

※EM-80/89(スピーカーマイクロホン)も同じ方法で、固定します。

7 保守について

A 日常の保守と点検について

- ふだんのお手入れは、やわらかい布でしてください。
  汚れのひどいときは、水でうすめた中性洗剤を少し含ませてふいてください。
- 使用される前(業務の開始前)に、バッテリーパックの残容量が十分あるか、電池マークを確認してください。
  また、バッテリーパック、アンテナ等がしっかりと接続されているか、またゆるみがないか点検してください。
- 定期的に決まった位置の相手局と通話して、交信状態に変化がないかを調べてください。
- 音量が最小にセットされていないか、ディスプレイ部の音量バーを確認してください。

B 故障かな？と思ったら

- **製品はすべて厳重な品質管理と厳しい検査により出荷されていますが、万一故障が発生したときは、お買い上げの販売店または弊社営業所サービス係まで、故障状況をできるだけ具体的に連絡してください。**

  故障と思われるときでも、もう一度次の点を確認してください。

①**[電源]**スイッチを押しても電源が入らないときは、バッテリーパックの容量や、バッテリーパックと無線機本体との接触状態を確認してください。
  接触不良のときは、前記にしたがって電源装着部を清掃してください。

②表示が変化しないときは、ロック機能が動作しているか確認してください。

③スピーカーやイヤホンから音が聞こえないときは、音量が最小にセットされていないか、ディスプレイ部の音量バーを確認してください。
  それでも音が聞こえないときは、**[音量]**スイッチを押して音量を調整したあと、**[モニター]**スイッチを押して確認してください。

C アフターサービスについて

保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

修理を依頼されるとき

「故障かな？と思ったら」(☞P29)にしたがってもう一度調べていただき、それでも具合の悪いときは、次の処置をしてください。

- **保証期間中は**

お買い上げの販売店にご連絡ください。
保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

- **保証期間後は**

お買い上げの販売店にご連絡ください。
修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

アフターサービスについてわからないときは

お買い上げの販売店または弊社各営業所サービス係にお問い合わせください。

弊社各営業所のお問い合わせ先は、この取扱説明書の裏表紙をご覧ください。

商品質がテーマです。

アイコム株式会社

本　　社	547-0002	大阪市平野区加美東6-9-16	
北海道営業所	060-0041	札幌市中央区大通東9-14	TEL 011-251-3888
仙台営業所	983-0857	仙台市宮城野区東十番丁54-1	TEL 022-298-6211
東京営業所	130-0021	東京都墨田区緑1-22-14	TEL 03-5600-0331
名古屋営業所	466-0015	名古屋市昭和区御器所通2-24	TEL 052-842-2288
大阪営業所	547-0003	大阪市平野区加美南1-8-35	TEL 06-6793-0331
広島営業所	733-0842	広島市西区井口3-1-1	TEL 082-501-4321
四国営業所	760-0071	高松市藤塚町3-19-43	TEL 087-835-3723
九州営業所	815-0032	福岡市南区塩原4-5-48	TEL 092-541-0211

●サービスについてのお問い合わせは各営業所サービス係宛にお願いします。

A-5494Y-1J-②

© 1998 Icom Inc.